

常磐日報

發行所 社 清 日 報 常 磐 社
編集人 櫻村 清
常 磐 日 報
平 市 仲 間 町 62

優良農具の御買求めは
三十年の経験と絶大信用ある
高松農機商會
常磐市開港船一〇〇
電話二二八・三二八

ゆらぐ政界

縣議戰展ぼう

の平市 卷

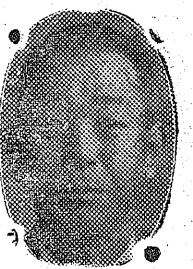
馬目縣議の獨り舞台か

當選二回の馬目武之助氏は馬目氏の頭上に輝いた。さて今度はどうなる。馬目もう確固不動の地盤を確立した金古氏は市會議長の氏は勿論出馬する年賀状とされている。親戚縁者の多い椅子に納まつて、再び立派な暑中見舞は必ず有権者に出る事市内隨一と云われ、その前回は市議佐藤源吉氏日その日が選挙運動といわと華々しい一キ打を展開し、第一回は平市が獨立區として市長選はこれ又鈴木辰三郎者心理を見ているのだ。馬目武之助、金古政通、神谷で興味は最高潮に達したの兼次郎の保守系三名と社会であった。市長選に勝った党大内近雄と四名の賑やか諸橋派はその余勢を駆つて派の抗争の最も烈しい時に一撃に馬目をほうむろうと行われたが、高木代議士の關内代議士自ら金古候補のしたが遂に彼の堅陣はゆる民主入りによって、平の事務長となり、陣頭指揮にが、栄冠は再び馬目武之助つたが力及ばず、栄冠は助氏に歸したのである。

政情の變化

縣會議員候補者の新人中一ハガキの類まですべて用意の縣議戰の下準備だと云わ番名前の知られているのはしたのに、その機を逸したる然し県会に出るなら、むし郡北を根據に出る川前村長のは何程か無念であったる。永山忠二だ。

助役をやり、村長三期をやつて追放となり、昨年四期目の村長に就任した。彼は大野村初代村長横山忠平の二男に生れ、川前の名門永山家の人となつた。戦後二三年の選挙に縣会に出ようとして、一切の準備を整えていたのに追放となり、おしくもその機会を脱長に出たのは、追放の空白致の態勢を整いた方がよかかしてしまつた。物資不足ので一般に忘れかけられていつたではなからうか。當時の事として彼に、カミ、る自分の名を、世に出す為徒らに村内に敵を設ける事長の侵略を防ごうとしてい



永山忠二
實業人で知られる

この政情の變化は必然的に眞議選に影響するであろう前回は落選の佐藤源吉氏は病氣のため立たない。ならぬと云うのでなければならぬといふのでなければならぬといふのでなければならぬといふのでなければならぬ。馬目武之助の對候補の必要もなからう。

馬目氏 市長なら

萬一市長選が、野崎氏の出馬によつて諸橋市長が引退した場合は、事情が一變する。市長は連沼か、馬目かとなるがその際馬目氏は市長に廻るものとみられる。馬目氏の後を繼ぐ者となるといろくあるが、市議小野榮一氏が一番可能性のある候補者となるだろうが、馬目氏の引退となれば自

永山勇吉氏か

積極的な意志表示をした人は外にないようだが、一応話題に上つた人々は、若手では坂本昌藏市議、醫師内木宗八、多田井笑次郎市議の元市會副議長永山勇吉の諸氏だ。

然しこの方部からはなからう。は策の得た物ではなからう。北山間部地方は三阪の名物男義人か偽人かと云われた奇人田子英吉以来約四十年、その息健吉が、福島在住の身である。方選挙はあるまい。二十年、一人の縣議も出ない。赤井以西山間部一萬五千の内相當まともなるかも知れぬ。元縣議草野順平和タクシーの社長でもあ

第2回 栄譽に輝く石城の清酒 於東京都 全国清酒品評会優等賞

<p>藤本家醸造 近藤本家醸造 電話(江名)28番</p>	<p>古川酒造場 植田町 電話16</p>	<p>松吉屋酒造店 電話平 2.10番 醸造元</p>	<p>長瀬義 濱小名市 港 電話 199番 醸造元</p>
<p>大黒屋酒造店 勿來町 電話3番</p>	<p>丸玉酒造部 平市 電話453番</p>	<p>馬目合名會社 平市電話1503</p>	<p>山宗醸造店 平市電話312番</p>

